（別紙4（2））

事業所名：グループホームはっぴーらいふ

作成日：　平成　28　年　4　　月　18　　日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念に対し、ホームの経年と共に入居者の状態など現状が変化しており、検討の必要性がでてきている。	現状に見合った理念を掲げ、全職員が理念を共有し、意識したケアを実践できるようにする。	①現在の理念を職員全員が理解し、ホームの現状を踏まえたうえで、理念の見直し、修正を行う ②朝の申し送り時に新理念を復唱し、職員への意識づけを図る ③理念を基に具体的なホームの方針と個人目標を立て、年度末に見直しを行う	12ヶ月
2	10	入居者やご家族等から意見や要望を引き出せるうよう一言箱を設置しているが、活用されておらず、真のご意見箱や満足度等がわからない。	日頃からの御家族の思いや要望等を知る事ができて、運営面や入居者へのケアに反映する事ができる。	①入居の契約時に「ぱっぴーになる一言箱」の設置を伝え、活用していただくようにする ②ご家族が自由にご意見を出せるよう、選択方式でどなたか特定できない方法を用い、1回/年アンケートを実施する ③ご家族に日常の生活状況が分かるよう、ホーム便りを作成し、送付する ④ご家族と職員との親睦会を計画し、ご家族が本音を自由に言い合える場を設ける	12ヶ月
3	36 45	生活場面において、慣れ合いやマンネリ化により対応の仕方や環境面に不適切な部分が見られる。	入居者を尊重した個別の対応を心がけ、環境面にも心配りを行い、入居者にとって快適な暮らしが提供できるようにする。	①毎月のケア会議で、環境面や入居者の支援方法について振り返り、不適切な部分は改善を図っていく ②支援方法など見つめなおす機会として、他施設への実習等を計画する	12ヶ月
4	49	入居者の重度化により、日常の外出支援の頻度が少なくなっている。	身近な外出支援の頻度を増やし、入居者が季節を感じたり気分転換が図れる。	①1日置きでも外気に触れて頂く時間を作る ②入居者個々の身体機能を見極め、レベルに応じた外出支援の頻度を増やす	12ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。